

◆第9回 テーマ別読解演習「比較文化・習慣」①／説明文

今回は説明文の学習で、テーマは比較文化・習慣です。説明文ですので、話題をおさえ、具体例から筆者の主張にせまっていくようにしましょう。なお、今回の文章には、あることがらをわかりやすく説明するために対比が用いられています。何と何が比べられているかを考え、そして筆者の立場をおさえて主張を読み取るようにしましょう。今回特に注意してほしい問題は、以下の通りです。

⊕ 問三 まず「目からうろこ」の慣用句の意味をおさえ、本文ではどのようなことが言いたかったのかを具体化します。

問四 「やさしい言葉」と「やわらかいもの」が対比されています。ここでは両者の共通点を考えます。

問五 「挽回」と「返上」の正しい使われ方をおさえましょう。

Ⓧ 問一 指示語の問題です。傍線部の後をよく読み、それを手がかりにして、傍線部の前から答えを探しましょう。

問四 対比の問題です。共通点と相違点をおさえましょう。

問七 「ファティック」は耳慣れない言葉ですが、本文中でどのような意味で使われているかをおさえましょう。

宿題 問二 対比の問題です。空欄補充になっているので、前後をよく読んで考えましょう。

問六 具体化の問題です。日本の習慣をおさえましょう。

◆第10回 テーマ別読解演習「比較文化・習慣」②／説明文

今回も説明文の学習をします。空欄補充の問題で、対比した内容を当てはめる設問はよく出題されますので、空欄の前後をよく読み、文脈をたどって考えるようにしましょう。今回特に注意してほしい問題は、以下の通りです。

⊕ 問二 習慣の違いについてくわしく書く問題です。

問五 対比した内容を当てはめる典型的な問題です。こういう問題に慣れていきましょう。

問八 それぞれの記述問題で、何が問われているのかをおさえましょう。

Ⓧ 問四 聞きなれない表現ですが、前後の文脈から意味をおさえます。

問五 「東京」と「大阪」は対比されています。「東京」と「大阪」の違いをまずおさえましょう。

問九 大阪の文化について、筆者の主張をおさえましょう。

宿題 問六 具体化の問題です。

問七 筆者の視点をおさえます。

◆第11回 テーマ別読解演習「比較文化・習慣」③／説明文

前回に続き、今回も説明文の学習です。ⓐは「人類」について、㍻は「読書」についてです。どちらもぜひ知っていてほしい内容になっています。今回特に注意してほしい問題は、以下の通りです。

ⓐ 問一 「人類」についての基本知識です。こういうことも、今回の文章を通して、覚えておきましょう。

問五 組み合わせを空欄に当てはめる問題は、確実に当てはまるものから選びましょう。

問七 人類の進化について「言語」の果たした役割はとても大きなものです。しっかりおさえましょう。

㍻ 問七 理由の問題です。「物理の先生の手紙」をまず具体化しましょう。

問九 それぞれの選択肢の説明が長いので、しっかりと読んで、それぞれの違いをおさえてから答えをだしましょう。

問十一 設問に「本文全体を読んで」とあるときは注意しましょう。筆者の主張をおさえてまとめましょう。

宿題 問五 文脈をおさえて考えましょう。

問十 正誤問題は、基本的に消去法で対処しましょう。

◆第12回 入試問題研究③

入試問題研究は時間を意識して実戦的なテストの受け方を学習します。今回は文章題が1題だけで、長文になっています。設問数も問十七まであるので、こういう形式にも慣れていきましょう。また、問十七が漢字の書き取りになっていますので、まずは問題の全体を見渡して、漢字の問題から取り組むようにしましょう。解答には配点を書いてあるので、WEBを見ながらマルつけをして、得点も出してみましょう。

ⓐ 問六 「ロンドン」という都市の特徴をまとめましょう。

問九 「銭湯」の良い点を探しましょう。

問十五 この問題は、文章全体をよく読んで考えるようにしましょう。

5年生後期で学習する単元は入試問題でもよく出題される単元が次々と出てきますので、しっかりととりくみましょう。

この講座は、日能研本科教室カリキュラムがベースになっています。本科教室で学んだことを深めることを目的にした講座となりますので、大切なことは、「本科教室をしっかりと理解した上で受講すること」です。この基礎にあたる部分を大切に、取り組むようにしてください。

動画の構成としては、まずは「例題」が各回3～4題収録されています。例題は動画を見ながら解法の手がかりとなる考え方を習得してください。例題の次には、練習問題として、例題の数値替えの問題が収録されています。機械的に数値を入れ替えて答えを出すのではなく、もう一度解法を確認しながら取り組むようにしてください。練成問題は、例題から派生した問題を中心に収録しています。このうち、例題から少し離れるタイプのうち、特に重要なものを動画で扱っています。

各回の学習の目安は以下の通りです。

◆第9回 割合と比Ⅲ

食塩水の濃度がテーマです。基本は食塩の重さを確認しながら、その変化をおさえていくことです。その上で、「濃度」「食塩の重さ」「食塩水の重さ」の関係を理解していきましょう。その上で、「面積図」やそれを簡略化した「天びん図」も利用できるようにしていきましょう。

①「例題と練習問題」

例題1－食塩水の混合①

「天びん図」を利用する練習にあたります。もちろん、食塩の重さをおさえていくことでも解くことはできますが、是非この解法にも取り組んでみましょう。

例題2－食塩水の混合②

水を「0%の食塩水」、食塩を「100%の食塩水」と考えて取り組むと、「天びん図」を利用することができますね。

例題3－食塩水のやりとり

複数の容器の間を食塩水を移してしていくことによる濃度の変化を考えていきます。やりとり図のかき方や、比例配分の考え方を利用しながら、変化をおさえていきましょう。

例題4－同時入替

例題3のように1回ずつ食塩水を移すのではなく、同時にくみ上げて、同時に入れ替えます。ただし、容器どうしのやりとりなので、食塩水の重さの和も、食塩の重さの和も一定であることを利用して、濃度の変化をとらえていきましょう。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してく

ださい。疑問点があれば、再度例題の動画を見てみましょう。

②「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第10回 平面図形 I

高さが等しい三角形どうしにおいては、底辺の比と面積の比は等しいことを利用していきます。つまり、底辺は異なるが、高さが等しい三角形の組み合わせをいかに見つけていくのが大きなポイントとなります。

①「例題と練習問題」

例題1－隣辺比（三角形）

「ある三角形の面積が全体の三角形の面積のどれくらいの比にあたるのか」という比を隣辺比と言います。これは「辺の割合×辺の割合」で求めることができます。これは、確実に理解するようにしましょう。

例題2－隣辺比（平行四辺形）

隣辺比を平行四辺形で応用します。発想としては、平行四辺形は三角形2つからできていると考えます。思考の基本は三角形であることを確認しておきましょう。

例題3－四角形における底辺比と面積比

底辺比を考える基本図形は三角形です。四角形の問題が出題されると、対角線で2つの三角形に分けることをまず心がけましょう。

例題4－底辺比と面積比（風車型）

高さが等しい三角形を発見するには最適な問題です。そのまま図を見ていても発見することはできません。発見するためには補助線を引く必要があります。どのように引けばよいのかをしっかりと学んでいきましょう。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してください。疑問点があれば、再度例題の動画を見てみましょう。

②「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第 11 回 平面図形Ⅱ

底辺比と面積比の学習を深めるとともに、相似の関係にも進んでいきます。今回は特に直角三角形の相似に注目します。最難関校では、よく出題されるテーマなので、しっかりと理解を深めてください。

① 「例題と練習問題」

例題 1－面積比から底辺比へ

第 10 回では、高さが等しい三角形においては、底辺比が分かれば、面積比が分かることを学びました。ここでは、面積比が分かれば、底辺比がわかることを利用します。ただし、ここでも三角形の組み合わせが大切です。

例題 2－加比の理

「1 : 2 の関係」のものと「1 : 2 の関係」のものを加えても「1 : 2 の関係」であることを加比の理といいます。さまざまな場面でも使われますが、最も多く使われるのが今回のような問題です。

例題 3－直角三角形の相似①

直角三角形の直角にあたる頂点から、斜辺に垂直に直線を引き、2つに分けると、その2つの直角三角形とさらに全体の直角三角形の3つは相似の関係になります。

例題 4－直角三角形の相似②

直線に直角三角形の直角にあたる頂点があるときは、相似な直角三角形があらわれます。さらに、相似比に注目するだけでなく、どんな性質をもった三角形なのかを理解することも大切になります。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してください。疑問点があれば、再度例題の動画を見てみましょう。

② 「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第 12 回 平面図形Ⅲ

「底辺比と面積比」の関係と「相似形」の関係を融合させていきます。どちらの関係もしっかりと理解しておかないといけません。難しい单元ですが、逆に言えばよく出題される单元とも言えます。時間をかけて取り組みましょう。

① 「例題と練習問題」

例題 1 – 平行線の利用

平行線を発見すれば、相似形がないかな？という視点をもってください。平行線を利用して、相似比がスライドするイメージをもって取り組んでください。

例題 2 – 相似形と底辺比の融合①

長方形のように平行な直線からできている図形では相似な三角形の組が発見されます。その相似比が底辺比になり、さらに面積比へとつながっていきます。また、相似な図形においては、「相似比」と「面積比」の関係を理解しておきましょう。

例題 3 – 相似形と底辺比の融合②

例題 2 からさらに直線が増えましたね。相似形の組み合わせも増えることになります。対応する辺がどこなのかを理解しながら進めていきましょう。

例題 4 – 相似形と底辺比の融合③

補助線を利用することで相似な三角形の組を発見していきます。補助線の引き方など理解を深めてください。さらに、「比合わせ」の発想も大切ですね。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してください。疑問点があれば、再度例題の動画を見てください。

② 「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。